

平成 21年度

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472101219	事業の開始年月日	
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 上野興業		
事業所名	グループホーム華花		
所在地	(248-0027) 神奈川県鎌倉市笛田4-1-36		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	6名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成22年1月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年11月4日	評価機関 評価決定日	平成21年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特長

①個人が居住していた大きいマンションの改良型であり、作りが高級であり、グループホームであると感じられない構造である。3階建の2F, 3Fの1ユニット6名のホームで6人という云う少人数は一緒に食卓を囲める人数であり、家族に準じたつながりと生活感がある。

②管理者は経営者の娘さんであり、地域に嫁いでいて、地域とのつながりが深く、個人的な相談までを自宅に訪問される等、相談対応にキリキリ舞する程地域に根付いており、地域との関係は非常に良い。又職員も地域の人であり、子供さん達の関係で小中学校との交流があるなど、地域と一緒にあったホームである。

③同じ系列でデイサービスも展開しており、両方の関係から地域への貢献が出来ている。利用者も幅広い相談ができる上、利用を決められることはこのホームのメリットである。

④食事のお代りや果物は常に食卓テーブルに気配りされ、夜食が欲しい人にはおにぎりを作ってあげる等、普段の家庭生活と全く同じに、自由気ままに過ごして頂ける介護に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム華花
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすい理念にした事で 全員におもいだしてもらえたらと思っています	昨年までの理念を変更し、職員と一緒に新しい理念を話し合いの上作り上げた。新しい理念は「笑顔で話しかける””気にかける””肩に手をかける””である。職員全員で作った理念であり、共通の理解と認識を持ちながら、この達成に向け日々、共に努めて行く。	今後も継続する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	中学生の合唱では入居者が涙をながし喜んでくれました 読み聞かせでは ホームの方が用意したお菓子を子供達に配るのを楽しみにしています	地区の商店会に加入し、バザーに出店したり防犯パトロールに参加して、地域の人々と交流をしている。お祭りではお神輿や、餅つきを見物している。近隣の中学生が職場体験で訪れたり、中学や小学校の合唱部員が来てくれている。管理者と職員が毎月、行政センターで未就学児童を対象に絵本の読み聞かせ会を開催している。フラワーアレンジメントの集まりや屋上でのパーベキューにはご近所の方も参加している。	今後も継続する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献	介護の悩みをお持ちの方の突然の相談にも、時間の許す限り相談にお答えするようにスタッフ共々心がけている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新予防給付で低所得者への十分な配慮を行政に要望しました	運営推進会議は年に3回のペースで開催している。参加メンバーは町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族、管理者、職員などであり、市役所職員がオブザーバーとして参加している。質問も多く活発な会となっている。会議ではホームの現状報告や介護保険の説明をするほか、テーマを決め認知症ケアなどについて話し合っている。質問も多く活発な会となっている。	今後も継続する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今の状態は全入居者が余裕があり 入居を待っている方が多数いらっしゃいますがそのおりに市役所にも相談するつもりでおります	市役所担当者とは報告書の提出時に現況報告や情報交換を行っている。空室がある時には入居者相談をしている。生活保護や運営推進会議、グループホーム連結会などで情報は充分交換出来ている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	白内障の手術をした時など家族と充分相談のうえ入居者の方の一番いい方法を選ぶため、お医者様と全員で工夫、身体拘束をしないでケアを心がけている	身体拘束の弊害については、職員に充分周知し、充分認識した上で介護を行っている。鍵をかけることの閉そく感についても充分認識しており、かけない工夫を全員で考えている。身体拘束に対する書面と作成し理解と常に注意するよう心掛けている。	今後も継続する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	十分に心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらに感ずるセミナーには、積極的に参加しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に心がけています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方でも、忙しくてあまり、ホームにおみえになれない方もいらっしゃいますが、ピアサポート（仲間同士で行う援助）を行い仲間の中にいて、なぐさめられ、また、支えられまた支え役へ涙から、笑いへ毎日楽しそうに暮らしている	家族の来訪時には利用者の日頃の暮らしぶりや、最近の心身の状況などを報告している。毎月の請求書に近況の手紙や写真を同封している。体調の急変時は電話で連絡している。金銭については月1回、出納帳のコピーとレシートを家族に送付して報告している。 家族会はないが、年に数回、初詣、物産展見物、屋上でのバーベキューパーティーなどの行事に家族を招待し、家族間の交流と家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。要望はその都度、解決している。苦情、不満などは出ていない。ご家族との仲は良く、何でも言い合える体制にある。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一が月に1回ミーティングを行い、昼食を食べながら和気あいあいと公私にわたった、はなしをするようにしている	こじんまりしたホームであり、代表、管理者を交えた職員会議の折には常に職員の意見を聞くようにし、出来ること、必要なことについてはその意見をすぐに取り入れ介護に反映するようにしている。	今後も継続する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	多くの、勉強が出来るように、応援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく、楽しく行きやすいようにサポートを心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市役所での管理者の会議には、必ず参加して交流をはかっていますまた、セミナーで知り合いになった事業所と交流する機会を設けたりしています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一丸となり努力をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり、対話を重ね努力をしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対話を重ねサービスに努力しています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方を一人の人格者という当たり前のことを大切にしたり前の事を当たり前にする努力をしています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	十分に努力しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	さいか屋でバイキングに食べに行ったとき全員がなんの問題もなく大皿にきれいに盛りつけ普段より食欲もよく職員がみな驚きました	地元からの入居者がほとんどであり、買い物などの外出が好きな方が多いので、なじみのサイカ屋や小田急近所の西友やローゼンなどの折込広告を持ちながら、入居前の生活との繋がりを保っている。個人別の生活層を大切にケアに努めている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口喧嘩などはあえて止めず穏湿しないように心がけ気持ちが前向きになるケアを目指しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつ来ても来やすい空気を大切にしています		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	病院から入居した時にくらべてみな、おしゃべりになり、心が（うつうつ）とされていた方々も笑う回数が増えまた職員の名前もあだななどでわかりやすく覚えてもらっています	入居時のアセスメントで利用者の趣味、嗜好、希望などは把握している。職員が聞かなくても、ケーキを食べたい、肉だと魚だと希望を言う人、大半の意思をボディランゲージで表現する人もいる。病院から入居した直後で、あまりしゃべらない人には話しの輪に職員が入って、コミュニケーションを誘導している。	今後も継続する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	心がけています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心がけています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のチームで作る介護の中終末期リハビリテーションとケアの徹底で尊厳ある死を保障し看取ることこれらをトータルして介護と言うと思います何よりも本人家族、職員、お医者様とで介護計画を作成しています	介護計画は、ケアマネージャーがケア記録や申し送り、医師の診断記録などを読み込み、本人、家族の要望を聞いた上で原案を作成し、全職員が参加するミーティングで「施設サービス計画書」を完成させている。その上で家族に説明して同意を得ている。 介護計画については毎月のカンファレンスでモニタリングを行っている。通常は3ヶ月毎に見直しをしている。心身の急変時には、本人、家族、職員で話し合い、医師等の意見も参考にし新たな介護計画を作成している。	今後も継続する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分に心がけています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分に心がけています			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援しています			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科がより眼科に来ていただくようになりました	通院などの問題もあり、内科、歯科は入居時から協力医療機関の受診を勧め、現在は納得して全員が受診している。利用前のかかりつけの眼科や皮膚科などは、職員が介助して通院している。通院の都度、家族と話し合い医療情報を共有している。	今後も継続する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に心がけています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度も手術などをしたために、すっかり病院嫌いになっているので入院は難しい事がほとんどです	重度化した場合の終末期のあり方については、医師と家族と職員で話し合いを行い、ケア方針を相互で確認している。終末期には協力医が毎日往診をしてくれる。ターミナルケアは4件の実績があり、外部で事例発表をしている。協力医は終末期ケアを引き受けてくれている。	今後も継続する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	そのようなセミナーに出て何かのときは迅速に対応出来るように 気をつけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	心肺蘇生法の実習の場には入居者の方も参加、興味を持って救命士の方の話を聞いていました	消防署の指導で年2回定期的に、消防訓練を行っている。内容は消火器の使い方、避難訓練などである。この他年1回救急救命の講習で心肺蘇生法の実習を受けている。職員に近隣居住者が多いこともあり、地域との連携が取れている。消防署直結火災報知器とスプリンクラーが設置されている。災害用の食料、水、備品が備蓄されている。町内会の防災訓練には参加している。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方への話し掛けも子供に対するようではなく、目上の方への丁寧な話しかけをそして、目線を同一にして話すように心がけています	職員はプライバシー保護の意義を十分に理解してケアに当たっている。職員会議でも意義について共通認識を確認し合っている。利用者には丁寧な言葉遣いを心掛けている。トイレ誘導は他の人に聞こえないように、時にはボディランゲージを利用するなどの工夫をすることもある。個人情報に含まれる書類は鍵のかかる書棚に保管されている。	今後も継続する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分に心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	十分に心がけています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に食べたいとおっしゃるものはなるべくお作りできるように協力をしています。嘔むことが出来た方にも同じものを刻み食にして食を楽しんでいただいています	グループホーム初期の目的である一緒にメニューを考え、一緒に作って楽しく食べることが実現出来ており、独自のメニューを維持している。 食材の買い物から献立づくりを職員と一緒にすることもある。食事の準備、調理、片付けも手伝っている。職員も利用者と一緒に同じ食事を取りながら、介助をしたり食べることを促したりしている。 食事の得意な職員もいてその人中心に美味しいメニューに力を入れている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に努力しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度訪問歯科に来ていただき口腔ケアをしていただいています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	もしも失敗した時はグループホームで飼っている猫の雪ちゃんのせいにしてゆきちゃんが失敗したようにしてそうじをしたりしています	こまめにトイレ誘導や声掛けをして、失敗してふさぎ込むことのないように支援している。この介護により、オムツが減り、外れ、介護度が向上した方もいて常に向上に努めている。	今後も継続する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に努力しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴をしたい方と入っていただくのが大変な方とそれぞれでうまく対応しています	入浴は特に時間を定めず、入りたい時に自由に入浴できる。平均的な入浴回数は週に2~3回である。入浴が好きでない利用者は年配の職員が上手に誘導している。やむを得ず入浴の間隔が開いてしまう時は清拭をしている。季節により、柚子湯や葎菔湯を楽しむこともある。お湯は1回毎に新しく入れ替え心地よく入浴してもらっている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	充分に支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	充分に心がけています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充分に支援しています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不思議な事に うなぎを出前でも取っても喜ばないのにウナギ屋に出かけて 出来るまで待って うなぎを食べた事は 帰られてからも楽しそうに しばらくお話されました	天気の良い日は、なるべく散歩に出たり、買い物に行ったりしている。近所の喫茶店には、よく散歩がてら出掛けている。春は花見やバラ展に、夏はデパートの物産展や、土用の丑の日に うなぎを食べに行くこともある。歩行困難な方は車イスで出掛けている。 一人出不糖の人がいるので最低週1回は散歩、外出することを目標にするなどの取組みをしている。	今後も継続する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りや バザーなどスタッフと共に出かけたり 買い物に出かけたりした時支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	心がけています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仲間の中において 支え合いながら 毎日、笑い合える日が、多くあるように、協力しています	直路に面しているが車の往来は少なく、屋内は静かである。窓からは周囲の小高い山が見え、屋上からの眺望も良く、季節を知ることができる。居間や廊下などに絵画や室内装飾品が飾られ、隅々に草花が生けられ、家庭的な温かみを感じられる。 6人のユニットであり、食卓を全員で囲める良さは家庭そのものである。ホームの運営もアットホームである。こここそ家庭の延長と思えるホームである。	今後も継続する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分に心がけています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを置いたりして、工夫しています	居室は、添え付けのベッドの他は、たんす、鏡台、イスなどの使い慣れた家具や人形、ぬいぐるみ、家族の写真、位牌などの思い思いの品が持ち込まれて、安心して過ごせる場所となっている。 個人の大きなマンションの改造型であり、1つ1つが高級感も溢れる素晴らしい居室である。	今後も継続する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分に努力しています		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム華花

作成日 平成21年12月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	近隣の中学生の合唱部員の生徒が職場体験で来てくれている。もう1歩踏み込んでみたい。	介護実習を体験した中学生の意識に介護予防の心構えと他者への思いやりが芽吹いたり、幼い頃から介護の事を勉強して欲しい。ホームでの教育カリキュラムを作って育成する。	ヘルパー3級取得運動を神奈川県でもやって欲しい。	1年以上

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。